

令和7年度 学校運営協議会 議事録

下野市立南河内小中学校

日時 1月27日(火) 9:30~11:30

参加者 <学校運営協議会委員>

齋藤 仁志 様 原 安礼 様 吉田 久恵 様

田口 裕之 様 上野 保久 様

田澤 孝一 校長 岡本 直美 教頭 上野 達也 教頭

高橋 由枝 教諭 阿部 正明 地域連携教員 黒崎 智照 地域連携教員

<地域学校協働活動推進員>

坪山 仁 様 海老原 忠 様

欠席者 野口 幸一 様 川田 玲子 様

会次第

1 会長あいさつ

2 報告事項

(1) 今年度の取組概要について(校長)

- ・今週、インフルエンザや発熱の児童生徒増加。本日から3年1組学級休業。他学年にも罹患者が出ているなど全校で流行っている状況。
- ・前回以降の学校の取組について(別紙参照)
- ・今後は、卒業式、修了式に向け動き始める。また、9年生は入試に向け、準備を進めている。

(2) 「特色ある道徳教育支援事業」について(阿部)

現在、教職員が授業研究部、特活指導研究部、環境・啓発研究部の3つに分かれて道徳教育研究を進めており、環境・啓発研究部では、校内の環境整備、学校内外への啓発を通して道徳教育を進めている。定期的に掲示物を作成して課題を投げかけ、児童生徒に考えさせるきっかけにしている。

今回は、児童生徒だけではなく保護者や地域の方など、様々な立場の人からも意見をいただき、掲示したい。ぜひ、委員の皆様にもご協力をお願いしたい。

Q 避難訓練で避難が完了するのにどれくらい時間がかかるのか。

A 1月の避難訓練では、後期課程で4分30秒、前期課程5分30秒。前回は後期課程は5分強。前期課程は7分程度だったので、かなり短縮された。

Q 休み時間に避難訓練になった場合、先生たちは職員室に戻っているのか。どう動けばいいのか、事前に児童生徒に指導はされているのか。

A 事前に指導はされている。また前期課程教員は、教室、校庭などで常に子供達と一緒に過ごしているので、全く周囲に教員がいないという状況にはならない。

- ・学校での児童生徒の様子を見ていると、放送が入るとやっていることを止めてよく放送を聞いている。

Q AEDの使用期限などには気を付けているのか。

A 定期的に点検等をしたり、バッテリー交換したりしている。

Q AEDの使用の仕方の研修を受けている教員はいるのか。

A 毎年、職員研修で全教員が学んでいる。

Q イングリッシュフォーラムは、県か市開催のものなのか。

・イングリッシュフォーラムの様子をケーブルテレビで見た。本校児童生徒の発表は素晴らしかった。A市で開催するもの。下野市は英語に力を入れている。今までに学習したことを発表する場となっている。

Q「英語でコミュニケーションDay」で一日英語の学習となった場合、児童生徒たちの反応は。

A「聞くこと」はよくできている。「話すこと」は個人差もあるが、英語に対する抵抗はなくなっている。

A多目的室で、抽出された学年が行った。ALTや先生方が上手に英語を使えるよう引き出しているの
で、子供たちもとても楽しんでいた。

(2) 今年度の地域連携事業の状況について(阿部・黒崎)

<前期課程>

- ・歴史館、市の協力を得ながら活動してきた。昨年度より精選した。12月の箏体験は、昨年度まで4、5、6年で行ってきたが、今年度は4年生のみ実施した。
- ・9月薬師寺住職の講話 昨年度までは3クラス各1時間だったが、今年度は6年生全員で1時間の実施となった。
- ・えごま 6年 収穫、油絞り エゴマ灯明の会のボランティア参加
- ・特別支援学級 いちご狩り いちごの箱折り(後期課程+前期課程高学年)を行う。

<後期課程>

- ・職場体験6月 8年 3日間実施した。
- ・職業人の話を聞く 6名の方に依頼し、7年生で2月10日実施予定
- ・小山おはなし会
- ・図書委員会による前期課程児童への読み聞かせを行った。事前に「らくんて」の方に指導をしてもらってから実施した。
- ・AEDの使い方は、8年生も講習を受けている。消防署職員を招いて行った。
- ・職業体験は、職員が事業にアポを取る前に、生徒にアンケートなどで希望をとっているのか。
- ・あらかじめ協力していただける事業を学校側で出して、その中から生徒に選んでもらうようにしている。協力していただける事業を見つけるのはなかなか難しいのが実態。もし、ご協力いただける事業があれば、ぜひご紹介いただきたい。

Q生徒は、6人の職業人の話を全部聞けるのか。

A2つ聞ける。なるべく聞く生徒の人数が均等になるよう配慮している。

Q教師の職場体験はできるのか。

Aできないことはない。やっているところもある。合併前には、小学校へ行くこともあった。前期課程のクラスで体験した時もある。

Qおはなし会は、どんな目的で行っているのか。

Aおはなし会の方は本の中身を全部覚えていて、臨場感あふれる話し方で聞かせてくれる。そういった世界観や感動を体験できる。子ども達も引き込まれている。

Qその後アウトプットしているのか。やれるといいのでは。

Aやっていない。お礼の手紙などは書いている。

・職業体験について。体験ではないが、働くことの意義など経営者の立場で話をしてくれるところがある。もし、希望するなら申し込むことが可能である。

3 協議事項

(1) 学校評価結果の説明(教頭)

- ・職員研修で、アンケートの結果について考察と改善策を話し合った。(別紙)

- ・保護者や児童生徒、教職員の結果に大きな差があった項目について
 - ①「読書」 保護者の評価低い 教職員 評価は高い
家庭でも手元に本がある環境作りが大切。働きかけをしていく。
 - ②「大きな声であいさつ」 教職員評価低い。
あいさつをすると気持ちが良いということに気付かせていきたい。
 - ③「9年間を見据えた小中一貫教育の推進」 まだまだ保護者や地域への啓発 不十分。
 - ④「自信を持って自分の考えを発表することができる」 保護者、児童生徒、教職員とも評価低い。
間違えてもよい雰囲気づくり
学級力アンケートを活用した学級づくり

(2) 学校評価結果に関する意見交換

- ・「大きな声であいさつ」
「あいさつできない子がたくさんいる。」と、他地区でも話題が出た。
学校だけではなく、学校外でもあいさつを教えていくことが必要。
家庭の中でのあいさつが少なくなっているのかも。
 - ・「主体性」 日本人はとても低い。(下野新聞の記事から)
小さい頃から、家庭で親が子のいいところを見て育てていくことが大切。
先生から保護者に、折を見て啓発できるとよい。
 - ・あいさつができない親の子はあいさつできない。そうした家庭で育つとなかなか改善できないことも。学校の道徳科などであいさつの意味を考えさせ、大切だと気付かせるとよい。子ども達自身の中からあいさつしようと思えるような指導が一番近道か。また、地域や保護者など、大人にも同時に呼びかけていくことが必要。
 - ・あいさつの基本は家庭。ただし、あいさつしている側も表情や態度など、あいさつを引き出す雰囲気作りは大切。
 - ・アンケートの自由記載欄に記載する方は、それなりの思いがあり、よい意見、厳しい意見ある。小中学校の取組を理解してもらうのはもう少し時間がかかるのでは。
- Q アンケート内容は市で統一されているのか。WEB で全員回答しているのか。1～9年生では回答の傾向も違ってくると思う。それをどう受け止めているのか教えてほしい。
- ・「生活のきまり」の項目には、教職員のみ「あいさつ」の内容が入っている。「進んで発表できているか」の問いには、教職員のみ「授業中は」の文言が入っている。これらにより、質問の受け止め方が大きく変わることもある。項目の再検討は必要ではないか。そうすることで、9年間の評価をする上で評価しやすくなるのでは。
- A アンケート項目は、市で決まっているわけではない。1～9年生まで Web で回答している。
1～9年生で見ると回答の傾向に違いが出てくると思うが、前期課程と後期課程の違いで見ると、あまり大差はないように思う。
- Q パワーアップアクションプランにも読書の項目が入っている。第1回目の会議で、①図書だより職員のおすすめの本を紹介を掲載 ②家読の推進 ③読みあげアプリ活用など意見が出たが、その後取り組んだものはあるのか。
- A アプリは使用していない。職員のおすすめの本は図書だよりには載せていないが、メディアセンター前の廊下には図書委員のおすすめの本の紹介コーナーがある。家読カードは継続して行っている。
- ・読書に関する事についてなら、協力できたこともあったかもしれないと反省している。
 - ・図書だよりによって保護者の声を載せるなどの工夫がある。保護者も少しずつ図書だよりを見るようにな

るのではないか。

Q 多読賞をやっている学校もあると言うが、取り入れてみてはどうか。

A 本校でもすでにやっている。

Q 部活の地域移行の話が以前出ていたが、その後どうなったか。

A 移行した部はまだない。バドミントン部では、外部コーチとして携わっていただける方をお願いしてきた。

Q 土日の部活は必要か。

A 絶対に必要ではないが、生徒達のニーズや大会への参加等を考えると、やはり土日のどちらかは必要になってくる。本校の教員は、そこを前向きに受け止めて進んで取り組んでくれている。しかし、教員の負担軽減を考えると、土日の部活動は地域の方に担っていただけるとありがたいと思う。

Q 情報科学部のようなものはあるか。

A 今はない。

Q タイピングやプログラミング、ゲーム作成など、今の子がほしいような部活があると学校に来るのも楽しくなるし、よいのでは。

A 土日は部活ではなく、他の自分の好きなことに取り組むことは国でも推奨している。しかし、それを学校で担うのはなかなか難しい。

- ・教職員の働き方改革を考えると、土日はやはり休んでほしい。
- ・「自信を持って自分の考えを公表している」について。場数を踏ませ、それが認められることが大切。「言ってよかった」「また言おう」と子供が思えるような取り組みを教員が工夫していくとよいのでは。先生方の話し合いで出た改善策がとてもよいと思った。
- ・子どもの長所を伝え合う機会などがあるとよい。

Q 年度始に、「スクラップ&リフォーム」への取組が校長からあったが、実行はされているのか。

A 部活動下校時刻 次年度は、夏でも18時完全下校となるようにする。

教員の働き方改革 教職員にアンケートをとって、できることを実行しようとしている。

今年度、一人につき月平均5時間くらい時間外勤務時間減少。平日80時間超える教員はごくわずかになった。

次年度から、5年宿泊学習2泊から1泊に変更。8年宿泊学習も2泊から1泊に変更。スキーではなく他の内容で実施。これにより家庭の金銭的負担減、教員の負担減が期待できる。

Q なにか協力できることはないか。

A 夏の除草や学習支援に加わっていただける方がいたらご紹介をお願いしたい。

- ・学校運営協議会で地域に呼びかけて、やれることを継続的にやっていけるとよい。除草に月2回程度定期的に、時間を決めて行うのはどうか。ボランティアの人数が集まる日とそうでない日があると思うが、そうした組織作りをするとよいと思う。

Q 除草剤は使ってはいけないか。

A 使っても問題ない。

4 その他

(1) 令和8年学校行事計画について

(2) 令和8年度委員について

(3) 卒業式の案内について